

煌け!

登美北

平成27年9月18日(金)
奈良市立登美ヶ丘北中学校
生徒指導より
文責：三間瀬 充宏

コミュニケーション

文化祭が終わりました。学級や部の展示や発表はどれも一所懸命に取り組んできたことを感じさせる素晴らしい内容のものでした。ここに至るまでは、意見の対立や話し合い、思い通りに進まないことに対する苛立ちなど、いろいろなことがあったと思います。でも、それはこれからのみなさんにとってとても大きな意味があります。最近、求められる力としてコミュニケーション能力が言われます。コミュニケーションとは、〈心のふれ合い〉〈共通理解〉〈共同関係〉と辞書には載っています。みなさんは文化祭の取り組みでこれらのことを体験できたのではないのでしょうか。体育大会では応援合戦があります。文化祭で取り組んだことを糧に、コミュニケーションがとれた素晴らしい演技が見られることを今から楽しみにしています。

二百十日

先週9日(水)に台風18号が列島を縦断していきました。奈良県では被害もなく「ほっと!」しましたが、関東から東北南部は影響を受けて豪雨となり、茨城県常総市では鬼怒川が氾濫し多くの人家が濁流にのみ込まれました。救助される人の姿がニュースなどで流れ、その後のようすが伝わってくると被害の大きさに驚くと同時に改めて自然の力に畏怖(いふ)を感じます。災害を受けた地域では学校が避難所となり、君達と同じ中学生のなかまが困難な生活を強いられています。はやく生活が落ち着き、学校が元の状態にもどることを願います。

日本では、暦の中に「二百十日」と言われる日があります。立春(2月4日か5日)から数えて210日目の日で9月1日頃にあたります。この頃はちょうどイネの果時期でもあり、また、台風の来襲する季節とも一致するので、農家にとっては厄日として警戒されています。今回の豪雨でも多くの田圃が水に浸かりました。昔からの言い伝えには意味深いものがあります。

登美北でも1日(火)の「防災の日」に、地域の人達が「収穫祭」で炊き出してくださったカレーをいただきました。みんなで同じものを食べることで「防災の意識を高めることができたのではないかな」と思っています。災害は突然襲ってきます。これは避けようのないことです。しかし、もしもの場合に備える準備はできます。危険が迫ったときに正しい判断・行動がとれる力を日頃から養うように心掛けましょう。災害に遭っても日本人は秩序正しい行動をとるという事で世界中から尊敬の目で見られています。実に素晴らしいことですね。

スローメディア

下の記事は毎日新聞に載ったコラムです。今はスマホに代表されるように、情報伝達の手段は、多様で早くなりましたが、その中身についてどれくらい考えたことがあるでしょうか。スローメディア一度取り組んでみませんか。

余録

世界150カ国、10万人以上の会員を持つスローフード運動は1980年代半ば、ローマの名所スペイン広場にマクドナルドが開店したこと
に危機感を覚えたイタリア人男性の提唱によって始まった▲普及の背景には効率や速さよりも暮らしのゆとりや質を重視するスローライフへのあこがれ、共感がある。近年、加速する情報化社会への疑問からスローメディアという考え方が生まれ実践されている▲福岡県久留米市の屏水中学校区では2008年からテレビ、パソコン、スマートフォンなどの映像メディアに接する時間を減らす取り組みが続いている。題して「スローメディア・プロジェクト」。親子で会話する時間を増やし、本や新聞などの活字メディアに接する機会を設けるのが狙いだ▲プロジェクトの発足に関わった久留米市立草野小学校教頭の松尾治利さんによると、以前は夜更かしなどで生活のリズムが崩れ、学びの場が成立しにくくなっていったという。「世の中の流れに乗るのではなく、自分の頭で考える習慣を子どもたちから身につけてほしい」と松尾さんは話している▲本紙などが昨年実施した学校読書調査によれば、小学生の91%、中学生の94%が世の中の出来事を知る手段として「テレビ」を挙げた。「携帯やスマホ」を情報源としている小学生は27%、中学生は46%で5年前に比べて激増した▲タブレット端末などで学ぶ「デジタル教科書」の導入が検討されている。ほしい情報に素早くアクセスできる映像メディアは魅力だが、向かい合って言葉を交わし、情報をじっくり味わうスローメディアの可能性にも目を向けたい。

2015.6.22

9月24日(木)～最終下校が17:30になります。